

3日(火)【寺子屋シュシュ】

午前10時～12時

17日(火)【仏教讃歌サロン】

午後2時～3時半

20日(金・祝)【法座前清掃】

午後2時～3時

22日(日)【春彼岸法座】

午後1時半～3時半

講師 竹本 憲 師 千同・善正寺

<スタンプラリー抽選会>

29日(日)

【土曜学校卒業式・遠足】

アウシュビッツ強制収容所訪問

2月12日～17日の日程でポーランドにあるアウシュビッツ強制収容所を見学してきました。

戦後80年の記念事業として広島別院が企画して、住職とご門徒の方お一人あわせて23名が参加。一同に声をつまらせ、当時の様子に胸を痛めました。

折を見てご報告の場を設けたいと思います。



「死の門」と呼ばれた収容所入口。貨物列車に乗せられた人々はこの門を潜り大抵の人がそのままガス室に送られました。



「ARBEIT MACHT FREI(働けば自由になれる)」収容所の入口に書かれていますが、実際には強制労働を扇動する囚人を取り込み、効率よく働かせるための欺瞞的なメッセージでした。

おてライフ

教安寺新聞
(毎月発行)

令和8(2026)年

3月号

NO.37

月のことば

つまずきの石

エチオピアのアビー首相は、隣国エリトリアとの国境紛争を終結した功績により2019年にノーベル平和賞を受賞した。弾圧されてきた民族の中から誕生した新首相は民族間の融和を推し進め国際的に評価を得たわけだが、異なる民族が多く暮らすエチオピアでは、それがかえって火種となって反政府勢力が台頭しあらたな紛争がおこり、今やアビー首相自ら前線で指揮をとっている。「戦争の準備をすることによってのみ、平和を獲得することができる」と「残念な事実」としてケネディ大統領が語ったが、逆説的な理屈は、時の為政者にとって強力で現実的な解決法に映ってしまうようだ。

ドイツなどヨーロッパを中心に、「ストルパーシュタイン(つまずきの石)」と呼ばれる10センチメートル角の碑が歩道に埋め込まれている。第二次世界大戦下、ナチスによって死に追いやられた人々や迫害から逃れた人々がかつて自分たちが生きていた場所であった証を刻むことを目的として、1992年にドイツの芸術家グンター・デムニヒによって始められ2千以上の地域に10万個が敷設されている。

人々は石につまずき、石に気付いて立ち止まり、歴史を振り返る。そして不寛容や無関心により、結果としてナチスに加担してしまった過ちに思いを巡らすという。この石でつまづいてケガでもしたらどうするんだと、日本ではすぐに騒動になりそうだが、歴史に学ぶことの痛みと大切さを知る。

自国を隣国に攻め滅ぼされたお釈迦様は、それでも「怒みを怒みで晴らしてはならない。怒みを捨てることで怒みは止む」と説いた。理想論ではない。これが歴史的真理である。



おてライフはご家族みなさままでお読みください



浄土真宗本願寺派 尚法山 教安寺
〒733-0851 広島市西区田方 2-20-1
TEL (082) 507-3067 FAX (082) 507-3087
URL <https://kyoanji.net>

